

被災地から復興にかける思い

～東日本大震災から5年～



▲東日本大震災発生直後の宮城県南三陸町の風景

▲復興が進みつつある宮城県南三陸町の風景(平成27年12月撮影、南三陸町提供)

平成23年3月11日に発生した東日本大震災から、間もなく5年を迎えます。大地震による津波は、宮城県、岩手県、福島県などの沿岸部のまちを破壊し、多くの人が犠牲となる甚大な被害をもたらしました。

現在、被災地では震災からの復興が進みつつありますが、被災地の一つ宮城県南三陸町では、亀岡市(保津町)出身で元亀岡市職員の中村正さんが、平成26年12月から現地で復興支援に携わられています。今回、大震災から5年を前に、中村さんから現在の被災地の現状や復興支援にかける思いなどをお話しいただきましたので、ご紹介します。

中村さん(亀岡市出身)からのメッセージ

亀岡市役所を退職後、勤めていた会社も61歳で退職し、自分の時間が持てるようになり、これまでの人生でお世話になった多くの皆さんに少しでも恩返しをしたいとの思いから、何かできることはないかと考えていました。ちょうどその頃、東日本大震災復興の応援職員を募集しているのを知り申し込みました。そして、



▶宮城県南三陸町で復興支援に携われる中村正さん

最初に南三陸町から連絡をいただいたのが復興支援に携わるようになったきっかけです。

南三陸町では、亀岡市職員時代の経験を生かして、飯庁舎にある町民税務課で、被災証明や所得証明などの各種証明書の発行、住民税の相談などに携わっています。

実際、住民や職員の皆さんの話を伺っていると、高台の造成や道路、漁港の復旧工事など物理的な復興が進む一方で、大地震による津波の被害で、まちから昔の面影がなくなるなど気持ちの整理には、まだまだ時

間がかかると話される人がたくさんいらっしゃいます。

また、震災発生から5年がたとうとしています。南三陸町の人口は、震災前は1万7,666人(平成23年2月末時点)でしたが、現在は、1万3,782人(平成28年1月末現在)と大幅に減少しています。また、観光で訪れる人も震災前と比べ少なくなっており、地域活性化に深刻な影響が出始めています。そのため、被害の大きかった東北被災三県(宮城県、岩手県、福島県)にぜひ足を運んでいただき、自然や歴史などの魅力を知って



▲亀岡市職員時代の経験を生かし、町民税務課で活躍される中村さん

ただいたり、被災地の特産品を取り寄せていただく、その他どんなに小さいことでも構いませんので、ご支援いただければうれしく思います。

私も体と相談しながら、これからも復興支援やボランティア活動など、できることから取り組んでいきたいと考えています。

亀岡市議会

議長と副議長が決定



すみお 純生 議長



ひであき 英昭 副議長

2月17日、平成28年第1回亀岡市議会臨時会が開かれ、正・副議長が決定しました。議長は引き続き西口純生議員(新清流会)が務められます。また、第51代副議長には福井英昭議員(新清流会)が新たに就任されました。

任期は、申し合わせにより議長・副議長共に1年です。西口議長は平成15年に初当

選されて以来、現在4期目。これまでに市議会副議長や議会運営委員会委員長などを歴任され、昨年2月に第40代議長に選出されました。

福井副議長は、平成23年に初当選されて以来、現在2期目。これまでに、産業建設常任委員会委員長や広報広聴会議委員長などを歴任されています。

「亀岡市人口ビジョン・総合戦略」を策定・公表しています

亀岡市は、このたび「亀岡市人口ビジョン・総合戦略」を策定しました。

亀岡市人口ビジョンでは、人口の現状を分析し、長期的な視点から、将来の展望と今後目指すべき方向性を提示しています。また、その方向性を実現するため、今年度から平成31年度までの5年間の具体的取組みを定めた亀岡市総合戦略は、①快適で魅力のある定住環境を整える、②セーフティで安全安心の定住環境を整える、③交流人口を増加させ、にぎわいを創出するを

亀岡市は、このたび「亀岡市人口ビジョン・総合戦略」を策定しました。

亀岡市人口ビジョンでは、人口の現状を分析し、長期的な視点から、将来の展望と今後目指すべき方向性を提示しています。また、その方向性を実現するため、今年度から平成31年度までの5年間の具体的取組みを定めた亀岡市総合戦略は、①快適で魅力のある定住環境を整える、②セーフティで安全安心の定住環境を整える、③交流人口を増加させ、にぎわいを創出するを



▲亀岡市人口ビジョン・総合戦略

施策の3本柱として推進し、市民の協働と参画により亀岡市の「良さ」を共有・発信することです。また、その方向性を実現するため、今年度から平成31年度までの5年間の具体的取組みを定めた亀岡市総合戦略は、①快適で魅力のある定住環境を整える、②セーフティで安全安心の定住環境を整える、③交流人口を増加させ、にぎわいを創出するを

第三百七十四 ふるさと亀岡の名品 19

元明院の宝篋印塔

(市指定文化財)

宝篋印塔とは難しい字を書きますが、五輪塔とともに中世から近世に建立された貴重な石造物です。石塔の中に宝篋印陀羅尼経を納めたことが名前の由来です。

五輪塔が丸みを帯びているのに対して、宝篋印塔は角ばった独特のスタイルです。また、供養塔として、シンプルな形状の五輪塔が多くの階層に幅広く使われたのに対して、装飾性が強い宝篋印塔は、主に高貴な人物に用いられる傾向がありました。

建立された時代が新しくなると、「笠」部分の四隅に付く三角形の「隅飾」が反り返ることから、「隅飾」が垂直に近いほど古いことがわかります。亀岡市内にも宝篋印塔は複数残っていますが、室町時代前期頃の作とされ、指定を受けているのが旭町の元明院



▲元明院の宝篋印塔

(文化資料館)

に残っています。高さ2・4メートルと市内最大の堂々とした形状で、上部の相輪が中途で折れているのが惜しまれます。真言宗の元明院は、寺伝によれば和銅元(708)年に元明天皇の勅願により建立され、平重盛や教盛による仏像寄進もあったようです。また、九州国立博物館に保存される元明院旧蔵の阿弥陀如来立像(平安時代後期、重要文化財)には、像の背面に「秦川勝」の銘があり、秦氏に関する伝承も伝えています。

このように、著名な人物らと結びつき、寺は隆盛を誇った時期がありました。現在では失われています。今となっては、境内に残された宝篋印塔だけが往時を偲ばせます。